

# 地歴公民

(世界史)

京都大学 (前期)

## <全体分析>

試験時間 90 分

### 解答形式

論述式・記述式

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

### 出題の特徴

I・IIがアジア史中心、III・IVが欧米史中心という出題範囲の大きな枠組みに変化はない。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

IIでは、昨年に出題された小論述問題がなかった。

IVは、昨年同様、A・B 2問だった。

全体として第二次世界大戦からの出題が少なかった。

## <大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	近代のオスマン帝国と成立初期のトルコ共和国における国家統合	オスマン帝国のミドハトニパシャ、皇帝アブデュルハミト2世、統一と進歩委員会、トルコ共和国初代大統領ムスタファ＝ケマルの国家統合について述べる300字論述。1999年度の論述問題のようなトルコの近代化の過程そのものを使うのではなく、どのような理念でどのような人々を結集して統合を図ったかについて問う。	やや難
II	A 記述	中国における「皇帝」	秦王政が初めて皇帝の称号を用いてから12世紀までの「皇帝」について、複数の皇帝が並び立った時代などをテーマに、その時代の中国史を政治・文化中心に問う。漢字が正確に書けるかどうかがポイント。	標準
	B 記述	3つの都市と租界	北京を除く3つの直轄市(南京・天津・重慶)にかつて設置されていた租界の歴史をテーマに、中国の近現代史を中心的に問う。 <b>b</b> 「天津」・ <b>c</b> 「重慶」は、問題文を丁寧に読んで判断する必要がある。	標準
III	論述	十字軍運動の性格の変化、影響	十字軍運動における性格の変化と、十字軍運動が中世ヨーロッパの政治・宗教・経済に及ぼした影響について述べる300字論述。	標準
IV	A 記述 論述	地図と地理的世界観	ヘレニズム時代から18世紀までのヨーロッパにおける地図と地理的世界観をテーマに、古代～近世のヨーロッパ史を中心とした問題。	標準
	B 記述 論述	「長い19世紀」	ホブズボームによる「長い19世紀」をテーマに、近現代史を中心とした問題。問19をはじめ、答えづらい設問が多い。	やや難

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

近年、II・IVの記述問題や小論述問題でなかなか手強い問題が増えてきている。しかし、全体としては高等学校の学習範囲を越えるものではないので、教科書の内容を古代から現代まで「穴」のないように理解する学習を心掛けよう。そして、論述問題の出来が合否を左右するだけに、普段の学習のなかで、「歴史事象」の因果関係の理解に力点をおいて、「歴史の流れ」を正確に把握する学習を進めてほしい。また、中国史やイスラーム史、古代ギリシア・ローマ史など特定の地域・分野が毎年出題されているので、京都大学の過去問の研究を進めておくことは、有効な学習対策となるだろう。